

桜中だより

長崎市立
桜馬場中学校

校長 大塚 潤

いじめをなくし、心を見つめる教育週間

県下すべての学校で取り組まれる「長崎っ子の心を見つめる教育週間」。

本校では、7月1日(月)から7月5日(土)の期間で実施します。

この教育週間は、子ども達に「いのちを大切に、心や思いやりの心を育成すること」や「家族

の絆」「将来への志を育成すること」などを目標として取り組みます。

以下には、6月24日に話した校長講話を抜粋して掲載します。

校長講話

「長崎っ子の心を見つめ

る教育週間」とは何か？
どうして教育週間が始まったのか、まずはここから話をします。

2003年 7月1日、
中学1年生の男子が、4

歳の男の子をあるお店から連れ出し、誘拐し、そしてその男の子の命を奪いました。その翌年、小学6



心が震えた佐藤直子さんによる家族証言講話

年生の女の子が、自分の同級生をナイフで切り付けて、命を奪いました。亡くなった女の子は、生きていれば30歳を超えていくくらいではないでしょうか。でも、いのちがなくなっていますから、今でも6年生の時の年齢のままです。運動会も部活動も中総体も合唱コンクールも経験しないまま、天国に旅立ってしまった。

「長崎っ子の心を見つめる教育週間」は、こんな悲しいことがもう2度と起こらないように、県内すべての学校で実施されています。私たち大人が、しっかりと子供達の心、皆さん一人一人の心と向き合い、かけがえのない、世界に一つしかない命、失ったらもう2度と戻ってこない命、自分の命も、自分以外の命も大切にしようという人として、人間として当たり前のことを、改めて一緒に考えていこうと決意し始まったものです。

しかし、そのような気持ちで取り組んでいる中、今から10年前、高校1年生の女の子が、同じ年の友達を命を奪いました。また、この数年間に、誰かにいじめられて苦しんで、悩んで誰にも相談できずに、自分の命を自分で終わらせてしまった、君たちと同じ中学生もたくさんいます。桜中生の中にも、今現在、いじめや、心無い言動で傷ついたり、つらい思いをしている仲間がいるかもしれません。

桜中の先生方は、「いじめは決して許さない、決して見逃さない」という決意を全ての職員で確認し、毎日生徒の皆さんと接しています。朝、「おはよう」と声をかけた時の皆さんの返事、休み時間の会話や表情、給食を食べている時の様子、授業での様子、部活動での様子、やり取り帳の内容などから、「困っている生徒はいないか」「悩んでいる生徒はいないか」と、絶えず君たち一人一人のことを気にしながら生活しています。「いじめ」は起こらない方がいいに決まっています。でも、いじめはなくなりません。だから、「いじめ」があった場合には、いち早く発見し、すぐに対応し、できるだけ早く解決することを心がけています。先生が気付かないことだってあるので、毎月、「学校生活アンケート」を行っています。

トを行っています。社会全体でも、いじめを許さないため「いじめ防止対策推進法」という法律まで作りました。その法律の中の第4条を紹介します。

児童等は、いじめを行ってはならない。どんな理由があってもいじめを行ってはならない。また、陰口など言葉でいじめ、「心理的な影響」や、力や暴力で相手がいじめ、「物理的な影響」を与えた加害者の方が大したことではないと考えていても、影響を受けた被害者の方が、いじめられていると感じたら、それは「いじめ」である。

いじめを受けたほうが、「いじめられている」と感じたら、それはいじめだから、無意識で人々からかったり、悪口を言ったりすることには十分気を付ける必要がある。わざわざいじめなければならぬ。わざと困らせたり無視したりすることも当然してはならない。それらは人間の尊厳を踏みしめる行為であり、人権を侵害する行為なので、どんな理由があっても絶対にしてはい

けません。直接いじめをしていなくても、笑ったりあおったりすることは、いじめられている人にとってはいじめていることと同じ。いじめを見て見ぬふりをするのは、いじめを正当化することであり、いじめられている人にとっては、それはいじめに加わっていることと同じ。

いじめとは、「自分が人にされて嫌なこと」「人が嫌がること」絶対によめよう。

「いじめ」を受けた時や見かけた時の行動のポイント

① いじめられたら「やめて」とはっきりと意思表示をしよう。

② 困ったら、誰かに相談しよう。相談することは全然恥ずかしいことではありません。

③ 周りの人は、傍観者になるのはやめよう。知らんふり、見て見ぬふりはやめよう。「やめなよ」と声をだそう。

普段から心がけること
① SNSに頼りすぎず、大切なことは直接顔を合

愛されている「いのち」
 限りある「いのち」
 かけがえのない「いのち」
 つながっている「いのち」
 生かされている「いのち」
 大切な自分の「いのち」
 大切な仲間の「いのち」
 当たり前にある「いのち」は、「キセキ」
 むだな「いのち」なんて、ひとつもない
 だから「生きる」んだ
 生き抜く、支え合う、感謝する、笑顔を大切に
 限りある命をどう使うかを問いかけよう
 大丈夫、大丈夫 きっと幸せになれるから

7月1日(月)5校時 道徳公開授業 PTA
 7月6日(土)PTA親子除草作業
 親子で「いのち」について考える時間にしましょう



トマトのいのちも輝いてきています

生徒会スローガン 「桜進天晴」

「昨年度は、雲外櫻天のもの、様々な取組に挑戦し、生徒全員で、桜が咲き誇

わせて伝えよう。相手の声や表情などから相手の気持ちを読み取る。自分が人にされて嫌なこと、人が嫌がる情報は送らない。
 ②意見が食い違っているも、他の人の考えを受け入れよう。
 ③クラスでは、誰もが思っていたことが言え、それを認め合える、励まし合える、温かな雰囲気をつくろう。

る華やかで活気のある空を望むことができた。でも、まだまだ桜中には、様々な課題があり、工夫次第では、さらに進化が望める。今までの伝統を引き継ぎつつ、桜中をさらに進化させたい。進化の先にあるまだ誰も見たこともない青空を望みたい。」
 浦山生徒会長の思い。桜が広がる、桜中らしい華やかで活気のある空を目指していこう。「気持ち良い青空」まだ誰も見たこともない青空にたどり着くには、桜中に、あなたのクラスにいじめがあつては、決して実現できま

せん。全校生徒395名、みんながみんな、学校が楽しい、クラスが楽しいと思えるような、桜中にしないといけません。
 Go forward togerの意図は、「桜中生みんなと一緒に前に進みたいという思いが込められています。これまでに桜中の伝統として大切に引き継がれてきた「桜色のあいさつ」「321運動」「縦割り活動」「地域貢献」に、これまで通り取り組む、これまでになかった進化した生徒会活動に挑戦しましょう。仲間と一つになって協力する」「ひとりひとりの心を成長

させる」「このことがいじめを根絶することにもつながると思う。
 「みんなの心を一つにした。みんなと一緒に協力した。一人ひとりの心を成長させた」その証として、この前の大運動会、大成功だった。みんなが輝ける、誰一人取り残すことなく、生徒会活動の取組を続けたい、きつといいめはなくなると思う。時には一人になってじっくりと考え、時には一つになって団結してじっくりと話し合っ、桜中全体・学年全体の結びつきがもっとも強く、なると、今まで以上に活

気と秩序のある誰もが過ごしやすい桜中になると思っ。

「ひとりになって頑張る力」「みんなが頑張る力」を発揮し、いじめゼロにつなげてほしい。

「自分たちらしく」「華やかに」「みんながみんな輝ける」「誰一人残らず、すべての命を輝かせる活動」「誰一人残らず、すべての生徒の命を大切にする活動」を生徒会活動の中で進めていってほしい。

仕事柄、いろんな学校を訪問します。学校を訪問すると、数分で、その学校や子供たちの姿が感じられるものです。校庭、廊下、教室がきれいに掃除されている。桜中を訪問してこられた方々もよく私に、「挨拶がとっても素敵ですね」とお褒めの言葉をいただきました。「私の誇りです」と答える。下足箱の靴がきちんとそろっている、桜中のみんなは、とっても輝いています。なぜか。

■掃除

掃除をするとききれいになります。きれいな環境にいます。心もきれいになる。散らかった環境にいます。心も乱れていく。汗を流して自分で掃除を

すると、汚さなくなります。掃除を通して、思いやりが育っている桜中生です。

■桜色の挨拶・返事

桜色の挨拶や返事のできる桜中生は、周りの人と「心の対話」「人間関係」ができるようになります。「入学式で「はい」の返事をし、卒業式で「はい」と返事をし旅立つ。返事を聞けば、心の様子がわかる。いい仲間、いい先生、素敵な地域の方々と出会えて、いい3年間だった。一生懸命に生きていくと思えるように、桜中生は毎日の「はい」を大切にしよう。卒業式の「はい」「こそ、心の成長の証」。

■履物をそろえる

「脚下照顧」自分の足元をよく見よう。身近なことに十分気を付けよう。まずは自分を見つめなおそう。後から来る人のことを思いやれる人になれる。人間としての締めまりもできる。桜中の生徒玄関は、いつもとてもきれいだ。

掃除、あいさつ、返事、履物揃えは、千数百年も前から、心を育むための「生活の学び」として実践

され続けています。

当たり前のことを「雑」にすると、心も「雑」になっていきます。321運動や8時5分までに校門を通過すること、スマホなど学校に必要なものは持ち込まないこと等、桜中ルール、みんな当たり前のことです。日々続けることで「辛抱」となり、「心」の「棒」となってくれます。当たり前のことをきちんとしてこそ、新しいことも身に付くのです。一つ「当たり前」のことをすると、一つ「いのち」も輝いてくれます。

「生活」とは、いのちを「生きる」「いのちを「活」かすことです。いのちを輝かすとは、「普通の生活」を、「生徒会活動」を大切にするということです。

教育週間を通して、「自分の命をどう輝かせるか」「自分の命を輝かせる生き方ってどんな生き方なんだろう」、そんなテーマを掲げて毎日の生活を送ってください。

きっと、あなたの未来を生きるすごい力になってくれます。